甲状腺外科草子 151

独断のお気に入り映画 6

杉野　圭三

アカデミー賞やカンヌ国際映画賞などに選ばれる映画のパターンはほぼ決まっており、軽い娯楽映画が撰ばれることは稀である。それらの映画賞とは無縁だが個人的に好きな映画を取り上げる。

栄光のエンブレム（1986，ピーター・マークル監督）

アイスホッケーのプロ選手を目指す若者の映画。氷上の格闘技と言われ、北米ではフットボールや野球並みに人気のあるスポーツである。この映画を見ると、売られた喧嘩を買わない選手は腰抜けと酷評される厳しい世界なのが分かる。

主演は**ロブ・ロウ**、友人にパトリック・スウェイジ、恋人役のシンシア・ギブが魅力あふれていた。選手たちの悪ふざけもうまく描かれ、このスポーツを知らない人にも分かり易い。

理屈なく楽しめる映画であり、B 級映画ではなく個人的に超 A 級映画と評価する大好きな映画である。

コクリコ坂から（2011、宮崎吾朗監督）

ジブリ作品の中で最も好きな作品。「**紅の豚**」も極めてよくできた作品だが、あと一歩及ばない。東京オリンピック（1964）以前の横浜が舞台。

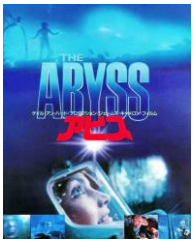
小生が東京、横浜の小学校に転校した時、オリンピックのため、古い建物や狭い道路などを改修する工事が急ピッチで進められ、街中をダンプカーが走り回っていた。この映画では時代背景が正確に描写され、懐かしく思い出される。

挿入歌も「**上を向いて歩こう**」などピッタリの選択。**宮崎駿**は挿入歌に関して、**加藤登紀子**（さくらんぼの実る頃）、**倍賞千恵子**（世界の約束）など、映画にピッタリの歌を撰ぶ慧眼の持ち主である。誰がみてもこの作り方は宮崎駿独自のものでしょう。脚本も宮崎駿、丹羽圭子となっている。

海や空の風景描写も美しく、爽快な気分になれるイチオシのアニメである。

アビス（1989、ジェームズ・キャメロン監督）

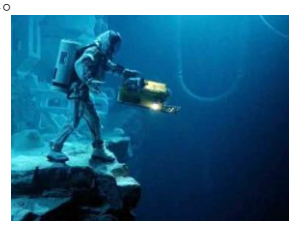
ジェームズ・キャメロンはターミネーター、タイタニックなどで知られる大監督である。
この作品は、一見地味だが個人的にそれらの大ヒット作を凌ぐ最高傑作映画と評価している。



主演の**エド・ハリス**と**メアリー・エリザベス・マストラントニオ**（長いので以下メアリー）が深海での緊張感あふれる良い演技をしている。

エド・ハリスは「ライトスタッフ」、「ザ・ロック」などでも光っており（頭ではなく）、数々の映画でも脇役として渋い演技をする好きな俳優の一人。

メアリーは「ロビンフッド」（1991）でもマリアン役を演じた個性的女優。



エド・ハリスが深海から戻れないと覚悟してメアリーに送るメッセージが光る。

“Knew this was one way ticket, but you know I had to come. Love you wife."

好きなセリフです。One-way ticket だぜ～！
この状況から復活するエド・ハリスは凄い！

（　一甲状腺外科医の徒然なる随想　）

2025 年 9 月 9 日